博士学位論文 審査結果の要旨

芝浦工業大学大学院 理工学研究科 博士（後期）課程
博士学位論文審査委員会

主　　査	吉武　良治
審査委員	橋田　規子
審査委員	梁　元碩
審査委員	蘆澤　雄亮
審査委員	矢口　博之
*審査委員	

氏　　名	大場　久恵
論文題目	「点・線・面」を活用した構成・構成要素の研究 -意図した印象表現のためのパラメーターの検討と提案-

〔論文審査の要旨〕

本論文は、日本のデザイン教育で導入、活用されてきたW・カンデンスキーの「点・線・面」の概念をもとにして、主としてグラフィックデザインの分野において、構成・構成要素と人が感じる感情の関係を検討した研究である。具体的には、点・線・面の数や形、大きさ、コントラストなどのパラメーターを分析した上で仮説を立て、適切な条件を設定し、それらを変化させたときに人が感じる感情及び印象の変化を、多くの実験を通して検討している。感情の評価はラッセルの円環モデルの快・不快、覚醒・眠気の 2 軸をベースとして、必要に応じてその他感情の形容詞を用いて評価している。論文の結論では、実験を通して明らかとなった結果を整理し、円環モデルの 4 つの象限ごとにそれぞれの感情を誘起するためのガイドとなる点、線、面の表現方法の例を示している。これまで定性的に語られることが多かったデザイン教育において、各種パラメーターの数や大きさなどの定量的な指標を用いて、印象等を説明できるようになることから、今後、教育現場等で活用できるガイドラインの制作や様々なデザイン教育への貢献が期待できる。

2022 年 11 月に開催した予備審査を経て、2023 年 1 月 28 日（土）13:30 から、豊洲キャンパス本部棟 3 階 2306 教室を主会場とし、オンラインとのハイブリッドにて公聴会・最終審査を行った。審査員 5 名は全員が対面参加、オンライン参加者は 13 名であった。1 時間のプレゼンテーションののち、一般参加の方との質疑応答において、本研究がグラフィックデザインの分野でどのように使用／応用できるかという質問や、人間がなぜそのように感じるかを文化や学習の観点、本能なのかといったアプローチの可能性についての質問があり、現在の状況について回答するとともに、今後、さらに取り組むべきことが見えてきた。15 時過ぎに一般参加者はオンラインから退出し、審査委員のみによる質疑応答を実施した。予備審査での指摘事項はほぼ、改善されていること、意義のある研究論文であることから全員が合格と判定し、今後の応用や期待についてのコメントやアドバイスがあった。

研究業績については、第一著者の査読付き論文が 2 編、学術論文誌に掲載済であり（さらに 1 編審査中）、基準を満たしている。また在学中に多くの国内外のグラフィックデザインコンペティションにおける実績がある。複数の入選や表彰を受けており、作品・制作／Works の業績も顕著であった。